

熊毛地区社会教育委員だより

令和6年2月発行
熊毛地区社会教育
委員連絡協議会

安全を祈願する社

熊毛地区社会教育委員連絡協議会
中種子町自治公民館連絡協議会
会長 松崎 義貞

我が中種子町の野間校区にある野間神社について、御紹介します。

《由緒》

人皇106代正親町天皇の御代時の領主種子島久時公は祭政一致の治世を行い、ことのほか敬神の念厚く、天正元年、現在の神域を霊地と定め、野間村の産土神として最も農本国にふさわしい五穀豊穰の神である豊受大神（とようけのおおかみ）を崇祀した。明治44年6月22日村社に列せられ、昭和40年に現社殿に改築され、現在に至っている。

《境内（社殿）の清掃作業》

忠魂碑の洗浄・手入れを行い、樺（ケヤキ）の伐採を行いました。永年にわたり風雨に耐えていましたが、老朽化と白アリの被害により幹の空洞化が進み危険なため、周辺の草木の剪定と草払い、折れそうな枝や境内の参道を覆う高く伸びた木の伐採も行いました。風景や外観の美しさを保ち、参拝者が安全に祈願できますよう、この作業を続けていき、境内の防犯灯の点検・管理を徹底していきたいと思います。地域の皆様と共に保存して大切に守り、そして後世にもずっと残していきたいものです。

戦後78年の時が流れ、世界各国で新型コロナウイルス感染症という病魔が猛威をふるい、大きな環境の変化により自然災害も多く発生している中、世界では戦争という絶対に起こしてはならない悲惨な出来事が起きています。我が国は平和憲法のもとに社会を牽引する国の一つとして発展しています。悲しい歴史を繰り返すことのないように一人一人が平和を望み、これからも美しい平和な日本で暮らしたいものです。

緑に囲まれた豊かな郷土の特色を生かし、元気な町づくりを進めて、多様化する時代の中で活気にあふれた地域を確保しながら継続していくことで、熊毛の更なる発展に繋げていきたいと思っています。



【清掃作業の様子】

歴史ある親子ふれあいスポーツ大会

中種子町子ども会育成連絡協議会
会長 住岡 重寛

令和5年12月17日、種子島中央体育館で、中種子町親子ふれあいスポーツ大会が行われました。

今年で47回を迎える歴史ある大会です。思い返せば、私が小学生の頃も行われていた大会です。当時はソフトボール大会でした。年々、子供の数が減り、小規模な子ども会ではチーム編成がままならず、競技種目を変えながら続けております。ちなみに競技種目は、ソフトボール、フットサル、パークゴルフ、キンボールと変遷しております。コロナ禍においては、なるべく身体接触が少なく屋外で可能なスポーツとしてウォーキング大会を実施いたしました。

昨年度からは、パラリンピック種目にも入っているボッチャを取り入れています。

最初は、ルールも探り探りしていた参加者がコミュニケーションを取るようになり、慣れてきた頃には戦略まで練るようになりました。

中種子町の場合は、校区が6つあります。野間校区は単位子ども会、それ以外の校区は校区単位での参加となります。皆様の団体でもぜひ取り入れてもらいたい競技です。

コロナ禍において、ことごとく行事が中止となりました。この中止してきた行事を再び立ち上げるとなると、ノウハウが継承されていなかったり、モチベーションが下がっていたり、中にはもう実施しなくてもいいんじゃないかという声まで聞こえてきたりします。行事を開催するに当たり、あらゆる団体が、コロナ前よりも2倍3倍の労力を必要とし、気苦労をしていると思います。

未来の子供たち、地域のために皆様の協力を得ながら頑張っていきたいと思っています。



【競技：ボッチャ】

「生きる力」を備えた子供たちの健全育成への取組

西之表市PTA連絡協議会
会長 松田 学

西之表市では「ひとりだちの教育」を教育理念として掲げ、西之表市PTA連絡協議会においても、子供たちの健全育成のために積極的な活動を展開しています。

そのような中、12月2日に西之表市民会館で開催された「令和5年度鹿児島県PTA活動研究委嘱公開熊毛大会」において、国上小学校PTAは『子供一人一人に「生きる力」を身に付けさせるPTA活動』、住吉小学校PTAは『元気で明るく礼儀正しく「生き抜く力」をもった住吉の子供を育成するPTA活動を目指して』を研究主題として、これまでの様々な取組成果が発表されました。

国上小学校PTAは、米作り（粳まき、田植え、稲刈り）からもちつきまでの体験活動を実施しています。米を作る大変さや苦労を経験し、生きていくための「食」に関する知識を習得するとともに、収穫の喜びを味わうことで、「生きる力」を育む活動が将来に「生きる力」へつながり、子供たちをたくましく育てています。

一方、住吉小学校PTAは、家庭で取り組むことのできる「早寝早起き朝ご飯」や「一家庭一家訓」などのほか、隣接する中種子町立星原小学校とは、昭和の初めから続く第88回を数える伝統の「仲良し相撲大会」を実施しています。家庭では、「生き抜く力」を意識した親子の語りや子供との密接な関わりが生まれるとともに、伝統行事などの中では、PTAの旧会員や地域の方々も関わり、伝統をつなぐ担い手としての子供たちの健全育成に努めています。

近年、子供たちを取り巻く環境は著しく変化し、人や地域との関わりの希薄さが危惧される中、現代をたくましく生き抜き、心身ともに健康で心豊かな子供の育成には、社会全体で子供を見守り、子育てをすることが重要です。

両校PTAの取組は、そのような課題の解決を図り、子供たちを「ひとりだち」させる教育に繋がっており、参加された他校PTAの皆様方への今後の活動に際し、何かしらの参考になれば幸いです。



【住吉小学校PTAの研究発表】

利用者のニーズに応えられる図書館を目指して

西之表市教育委員会社会教育課
西之表市立図書館司書 鈴木 桂

西之表市立図書館では、コロナ禍を経て、利用者・貸出冊数共に毎年ゆるやかな減少傾向にある。利用者が通いたくなるような利用者サービス、図書館づくりを日々模索している。

今年度の取組として、借りた本の履歴を通帳に記録できる読書通帳機の導入がある。通帳には貸出日、本のタイトル、著者名などが印字されるので、夏休みの読書記録として特に小学生に好評だった。

4月から移動図書館車も新しくなった。軽自動車仕様となり、積載数は800冊と少なくなったが、その分次回持っていく本のリクエストを聞くことでコミュニケーションが増え、よりニーズのある本をお渡しでき、小回りが利き巡回しやすくなるなどの利点もあった。移動図書館車は、普段図書館を利用するのが難しい、高齢者施設や障がい者施設を巡回コースに入れるようにしている。

また、例年8月に小・中学生、学校司書を対象とした「ブックコンシェルジュ養成講座」を2日間、開講している。受講者には、受付業務、レファレンス演習、読み聞かせ演習、豆本制作などを体験していただくことで、市立図書館の存在を身近に知り利用してもらうとともに、学校図書におけるリーダーの養成などを目的としている。

他にも、図書館閉館後に、吹奏楽カルテットによる「よるのとしょかんミニライブ」を開催し、図書の貸借以外の新たな市立図書館の活用にも積極的に取り組んでいる。

今後も、イベントや移動図書館車を利用したアウトリーチサービスを工夫し、より良いサービスが提供できるように努めていきたい。



【移動図書館車あおぞら3号】



未来へ受け継ぐ150年の愛校・愛郷の想い

南種子町立荃南小学校
校長 寶満 幸博

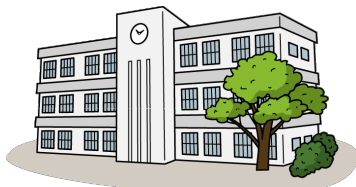
本校は、明治6年、種子島で2番目の学校として創設され、今年度創立150周年を迎えた。令和5年11月11日（土）には、「未来へ受け継ぐ150年の愛校・愛郷の想い」のサブテーマのもと、記念式典を開催した。

本校は、県下でも極めて古い歴史をもち、これまでの伝統から、保護者や地域の皆様の教育に対する関心や情熱が厚く、学校行事等に非常に協力的である。教職員も、これまでの先輩方が築いてこられた伝統を守りつつ、維持・発展していけるように積極的に取り組んでいるところである。

そのような中、今年度は、「150周年記念事業の推進」という機会をいただいた。この機会を、保護者や地域の皆様と学校が一体となって取り組む絶好の機会と捉え、学校からも計画案等を積極的に提案し、進めた。

文部科学省によると、「子供や学校が抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育が不可欠」とあり、より豊かな子供の学びを生むためには、地域や保護者との密接な関わりが非常に重要であることを示している。また、「子供の成長とともに大人たちの成長を促し、地域の絆を強めていくことは、地域が良くなれば学校が良くなるという好循環を生み出す」とも示されている。このことは、本校並びに荃永地区が、正に実践していることであり、今後も積極的な連携を大切に進めていきたい。

本事業として、校旗の新調・のぼり旗や周知看板の製作・運動会でのドローンによる記念撮影・記念品作製・記念動画作製・記念式典並びに祝賀会の開催等、多くの事業を遂行していただいた。すべての事業において、計画・準備・片付け等、実行委員会の皆様を中心に保護者や地域の皆様が細部に渡って配慮をし、進めてくださった。式典には、地区内外から100人以上の皆様に出席していただいた。会場では、満面の笑顔や語り合う姿が見られ、素晴らしい式典となった。今後も、この事業で築いた絆を大切に、未来に向かって発展し続けることができるように、保護者や地域の皆様と連携を密に図っていきたい。



創立150周年事業と地区公民館

南種子町社会教育委員会委員長
荃永地区公民館長 外園 香

今年度、荃南小学校と荃永地区公民館は共同で実行委員会を立ち上げ、創立150周年の事業を行った。荃南小学校は、明治6年創立の、種子島で2番目に古い学校の一つであるから、これから創立150周年を迎える他の小学校、校区の参考になればと思い、その成果と課題をまとめたい。

実行委員会は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行する前の令和5年4月に正式に立ち上げた。実行委員長には、荃南小学校の前PTA会長であり、地区の三役でもある石堂裕司氏に就任いただいた。また、副実行委員長に荃南小学校長・PTA会長及び地区公民館長を当てることで小学校と地区の緊密な連携を図った。

課題となったのは、予算確保である。PTAは、少子・高齢化の中、会員数も減少し、予算的にも苦しい状況であったので、地区公民館の特別会計から50万円を補助することを決定した。結果的に寄付も集まったが、事業計画を立てる際に、その裏付けとなる収入を確保でき、校旗の新調・のぼり旗や周知看板の製作・記念品作製・記念式典並びに祝賀会の開催等、予算がかかる事業を円滑に進めることができた。

私たちの校区では、創立150周年事業を実施したことが、コロナ禍で薄れていた地域と学校の連携を取り戻す契機となった。人口減少が進む中、これからの社会教育には、地域と学校が共に協力し合うことが不可欠である。これから150周年を迎える小学校区でも、ぜひ、積極的に創立記念事業に取り組まれることを望みたい。



【荃南小学校創立150周年記念式典】

【編集・発行】

熊毛地区社会教育委員連絡協議会事務局

住所 西之表市西之表7590番地

熊毛教育事務所内

電話 0997-22-0535

FAX 0997-22-0521

P T A って、実はこういうもの

屋久島町P T A連絡協議会
会長 川東 敬

本寄稿文の作成に当たり、そもそも社会教育とは？を自分なりに調べてみました。すると、「生涯学習のうち学校教育に含まれないすべての学習活動」というところにたどり着きました。例えば、仕事をする上でその知識を深める学習や、スポーツや趣味を楽しむ活動など、あらゆる学習活動が該当します。拡大解釈かもしれませんが、ほぼすべての人が社会教育と何らかの形で関わっている、ということになりそうです。それでは、P T Aという立場での社会教育について一考してみたいと思います。

P T Aは、学校の教職員と保護者の組織です。そして、社会教育団体であるといえます。単位P T Aが実践している活動は、地域とともに学校を支える活動、会員がより良い親子関係の構築や会員の資質向上を目的として行う学習活動、地域に受け継がれる伝統などを守り引き継ぐ活動など、数多くあります。もちろんすべての活動にすべての会員が参加できるわけではなく、「できる時に、できる人が、できる事をする」という精神で無理なく余裕をもって取り組めるように配慮されています。

しかし、ここ数年、P T Aに対する見方が変わってきているように感じます。P T A非加入問題です。会費の負担や、半ば強制的に活動参加を強いる雰囲気を感じる組織運営の在り方などに対する反対意見などが聞かれるようになってきました。しかしながら、会費の使途の多くは活動費および活動に伴う保険料等、子供たちに還元される仕組みとなっています。強制的な風潮についても、改善していく取組が徐々に増えてきており、今後ますます健全な社会教育団体としての役割を担っていくものと思われま

す。未来を担う子供たちの健全育成のため、学校や地域と一緒に汗を流し、知恵を出し合うP T A。私たちにあって、身近で頼もしい社会教育団体であり続けなければならないと思います。



【P T A学級レクリエーション】

未来へ導く「はじまりの場」

屋久島町歴史民俗資料館
職員 黒飛 淳

私は移住者である。縁あってこの島に移り住み、今の仕事にたどり着いた。ここでの仕事は面白くて仕方ない。移住者である自分の眼に映る島の姿はすべてが興味深く、世界遺産の自然に劣らず、その歴史と民俗は多様性に満ちていた。とりわけ島の暮らしの証人としての民具は私を魅了した。しかしそんな私の思いとは裏腹に島の多くの人たちにとっては、それらはもう見慣れた昔の古い道具でしかなく、いつしか物置の隅に押しやられ、いずれ忘れ去られる運命となりつつあった。

しかし、暮らしと共にあった民具には人々の記憶と知恵が刻み込まれていて、それらを顧みないということは自らのルーツを見失うことと同じではないか。この問いかけが私の仕事の核となった。『島の子供たちにより分かり易く、かつ楽しんで島の歴史・文化に親しんでもらう』というテーマのもと、子供たちと同じ眼と心になって、何をどう伝えるか、考え始めた。

古いものだが、古ぼけないように、展示全体を見て楽しめるようにと工夫し続けた。そして展示だけでは収まらず、次にその民具を実際に使う体験を始めた。ガラスケース越しの知識でなく、手に触れ、使ってみて、その肌を通して先人の知恵を感じてもらおう。初めこそおっかなびっくりの子供たちがすぐに声をかけ合い「結い」の心を体現してくれる姿は喜びであった。

この民具体験の舞台となっている再現古民家にはもう一つの顔がある。屋内にある囲炉裏を囲んで様々な分野の方を招いて話をしてもらうトークライブである。まさに老若男女が集い耳を傾け、心を開く、コミュニティとしての囲炉裏端を目指している。

ここ歴史民俗資料館で行っているすべてが過去と現在をつなぎ未来へ導く「はじまりの場」であると信じて止まない。



【ゴットントークライブ】